

# テレワークにも注意を

## 長崎でセキュリティー対策講演会



不正プログラムの最新動向や対策が紹介された講演会。長崎市大黒町、ホテルニュー長崎

「最新のサイバー攻撃の実態とセキュリティー対策」と題した講演会が27日、長崎市内のホテルであり、専門家らが新型コロナウイルス感染症拡大で普及しつつある

るテレワークにも注意を呼び掛けた。

講演したのは、トレンドマイクロ(東京)の上級サイバーライムアナリスト、佐藤健氏。

佐藤氏によると、「ランサムウェア」と呼ばれる身代金要求型不正プログラムはこれまで、企業のデータを暗号化して使えなくする手口が主流だった。だが、2019年以降は、データを盗んでインターネット上に公開すると脅す例が頻発。新型コロナウイルス禍に便乗した不正サイトやメール詐欺も増加傾向にある。テレワークで使うビデオ

会議ソフトをインストールする際、「バックドア(裏口)」などの不正プログラムが正規ソフトとともにダウンロードされるため、被害者は感染に気付きにくい。佐藤氏はソフトを正規サイトから入手するよう勧めた。その上で「感染は完全には防げない。必ずログ(記録)の保存や定期的な確認、重要情報のバックアップを徹底してほしい」と述べた。

講演会は県情報産業協会(濱本浩邦会長)が経済産業省の委託で主催。オンライン形式を含め約70人が聴講した。(後藤敦)